

# エッセイから広がる未来

6月7日より『JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト』の作品募集が始まりました！

エッセイコンテストは、個人での参加もできますが、学校の学習活動の一環として実践されている例も多く、それぞれの位置付けで活用いただいています。今回は、エッセイコンテストに取り組む学校の先生と、その学校から昨年入賞した生徒に取材し、エッセイコンテストの活用方法や参加した感想をお聞きました。

## JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに、学校として取り組んでいる興南中学校・高等学校の知念先生に、コンテストに取り組むことになったきっかけやその方法、効果について伺いました。

### 学校法人興南学園 興南中学校・興南高等学校(沖縄県)について

興南中学・高等学校では、建学の精神「南(沖縄)を興す人材の育成」に基づき、沖縄から日本、そして国際社会へ貢献できるグローバル(global×local)リーダーの育成を目指しています。中高6か年教育の中で、沖縄のもつ独自の文化や特性を深く学び(local)、その学びを日本、そして世界へとつなげていく(global)経験を積み重ねていきます。【Glocal×Local×Leaders～沖縄興南学園の取り組み～より抜粋】



←  
実社会の中で課題を探求し  
解決策を提案する、  
課題解決型の総合学習  
「興南まなVIVA」の授業の様子。



### 1 学校でエッセイコンテストに取り組むことになったきっかけは？

本校には、JICA海外協力隊に参加してナミビアで活動していた教員がいます。その教員からの「JICAのエッセイコンテストを生徒たちの視点の世界に向けたきっかけとして、活用できないか」という提案がきっかけでした。建学の精神である「南を興す」人材育成や、沖縄から世界を引っ張る「グローバルリーダー」育成のために、エッセイコンテストは有効な活動だと考え、学校として取り組むことになりました。

### 2 エッセイコンテストの応募に向けた、導入や事前学習はどのように構成している？

本校では中学生の全学年を対象に、夏休みの課題として取り組んでいます。特に、初めてエッセイを書く生徒が多い中学1年生には、事前学習として授業時間を1時間使って、5段落エッセイの書き方の講座を行っています。講座では、エッセイコンテストの過去の受賞作品をひとつ取り上げ、みんなで話し合いながらその構成を分析します。段落ごとにどんな書き方をして、一つのエッセイ文章としてまとめているか、どれくらい自分の身近なこととテーマを結びつけているか、といった視点を伝えるようにしています。毎回、エッセイコンテストのテーマは、国際協力や世界についての視点で設定されていて、中学生にとってはなかなか大きなテーマだと思います。そのため、学校や日常から少し離れた時間の中で作文に取り組んでもらうほうが、自分自身の考えが深まるのではないかと考えています。本校から受賞した又吉さんも、夏休みの間に家族で話し合い、考えて取り組んだことを題材に書いてくれました。

### 3 エッセイコンテストによる生徒の変化は？

生徒たちは毎年エッセイを書くにつれて、文章を書くことが好きになる生徒もいるし、慣れていく生徒も出てきます。もちろんいつまでも苦手だったり、慣れない生徒もいますが、私が強く感じるのは、生徒たちの中にある、文章を書くことに対する障壁がなくなっていく変化です。毎年継続して参加することで、文章を書くコツや取り組み方、作品を書くことの楽しさを学んでくれているのだと感じています。

2020年度JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 中学生の部で  
国際協力特別賞を受賞した、学校法人興南学園 興南中学校の又吉詠子さんに、  
参加してみての感想と、エッセイの題材となった体験について、お話いただきました。

**学校法人興南学園 興南中学校 2年生 又吉 詠子(とわこ)さん**

### 入賞作品

「一万円の使い道」（又吉さんが作成したエッセイは[こちら](#)）

2020年度 JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 中学生の部国際協力特別賞受賞



夏休み前、一万円をどこかの団体に寄付をしようという父の提案から、又吉さんは「一万円でできること」を調べていきました。その中で世界のことを知り、一万円の価値や自分の暮らしを見つめ直し、途上国の女の子を援助をする団体に寄付を決めた体験について、その時考えたことや感じたことと併せて書かれました。

### エッセイで誰かに伝えることで広がっていく



自分の体験をきっかけに、これからもっと世界のことを詳しく知りたい、調べてみたいと思ったので、このテーマでエッセイを書きました。

改めて文章にすると、今私が「あたりまえ」だと思っている生活が、実はそうではないということに気がきました。エッセイの題材を決める時には両親ともよく話して、元々関心のあったジェンダーの問題や差別・偏見といったテーマ、そして特別支援学校の先生をしているお母さんとは、児童養護施設の課題についても話し合いました。今まで気になっているだけで行動に移せなかったことを、自分で調べて、エッセイで誰かに伝えることで、その調べたことが少しでも広まっていけばいいなと思っています。

### エッセイの題材になった体験は「身近なものから世界を考える」ことだった



以前から途上国やJICAのことはテレビで見たことがあって、遠い国で困っている子どもたちや、きれいな水が飲めない人たちは、他にどんなことに困っているのかな、と気になっていました。でもその時は、自分から調べようとはしていませんでした。父からの提案をきっかけに、よく調べてみると、一万円で世界の人たちのためにできることはたくさんあるんだ！ということがわかりました。この機会がなければ考えることもなかったようなことを、じっくり考えることができました。例えば世界には、慣習や貧困、家庭内暴力などによって、勉強をしたくてもできない女の子や、自分の意志通りに生活ができない女性がいると知って、性別にかかわらず、みんなが自分の生きたいように生きられたらいいなと思いました。

普段一万円は何か物を買ったらすぐ使い終わってしまうけれど、今までの自分のお金の使い方よりも有意義な方法を学ぶことができました。そこで途上国の女の子を支援する寄付を行うことを決めて、ポリビアに住む8歳の女の子を支援することになりました。この支援はその子が16歳になる時まで続きます。今はポリビアについて自分で調べてみっていますが、これから手紙のやりとりを重ねて、もっとその国のことを知ったり、日本のことも教えてあげたいと思います。

又吉さんから、これからエッセイコンテストに参加しようとしている人へのメッセージ

エッセイコンテストに参加して、ゼツタイ損はしないと思います！

私はエッセイを書く中で、今まで考えたことのないことを考えて、その中でたくさんを知ることができました。

私の将来の夢は獣医になることですが、こうしていろんなことを知る中で夢も変わるかもしれないし、少しでも関心のあることはどんどん調べてみる方がいいと思います。エッセイコンテストはそんなきっかけを与えてくれるものでした。

▼JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストについては[こちら](#)

[概要](#) / [2021年度募集案内](#) / [過去の受賞作品](#) / [エッセイを活用した授業実践事例](#)

エッセイを書くことは、「世界のことを自分なりに考え、文章で表現する」一見シンプルにも思える活動です。一方で、多くの世界の課題には、まだ正解が出ていません。答えのないものを自分なりに見つめ、考え、自分の言葉で発信をすることは、これからの社会を生きる上で、とても大切な要素なのかもしれません。もちろんエッセイコンテストは、中学生・高校生による個人での応募も大歓迎です！皆さんの想いの詰まったエッセイを、ぜひご応募ください！